

議 事 録

I 会議名	第3回 特別史跡彦根城跡保存活用計画・整備基本計画検討委員会
II 開催日時	令和3年1月7日(木) 午後1時30分から
III 開催場所	彦根市民会館 3階 第2会議室
IV 出席者	委員 金田委員長、麓副委員長、小野委員、小浦委員、高瀬委員、 野間委員(WE B会議での参加)、木川委員、成田委員 オブザーバー 滋賀県 文化財保護課 北村主幹、大崎副主幹 彦根市 古川都市計画課長、北村観光企画課長、宮崎学校教育課長 事務局 広瀬部長、久保次長、松宮副参事兼課長、小林主幹、鈴木主幹、三尾係長、 多賀主査、門西副主査、舟山技師 受託業者 ㈱プレック研究所 廣瀬部長、杉本主査、森岡
V 議 題	1 第4章 基本方針について(資料2 P1~P4) <u>意見等</u> ○P2「③より多くの市民や来城者への本質的価値の普及を目指す整備」について ・あらゆる年齢層の方や障がいをお持ちの方に観光を楽しんでもらう仕掛けづくりについて記載すること。 ○P3「(2) 要素ごとの整備方針」について ・それぞれの要素の特徴や重要性を明確に記載した上で、もっと積極的に「この場所・地区・要素はこのような整備をする」という記載の方がよい。 ・復元の対象時期が江戸時代後期ということは把握できるが、「現状保存」との関係が不明瞭であるため、整理すること。 ・「保存整備」と「活用整備」とでは意味が異なるので、明確に分けて使用すること。

2 第5章 整備基本計画（資料2 P5～P54）

意見等

○P11「②石垣、雁木、石段等の整備」について

- ・石垣の修理については、今まで石垣の修理に先立って経過観察を行い、石垣修理委員会を設置し、修理箇所や方法を厳密に検討してきた経緯があることから、本計画においても同様の扱いとすること。

○P11「2）石垣カルテに基づく点検の実施」について

- ・石垣に関する整備計画の根拠や基礎データ、調査結果の概要などを石垣カルテにも記載すること。

○P31「(3) 修景及び植栽に関する計画」について

- ・（ここでの）趣旨としては、サクラだけでなく、特別史跡彦根城跡の固有の価値を提案することである。
- ・大樹の伐採については、市民と議論することで、結果として特別史跡彦根城跡に対する市民の理解を促すといった取り組みも考えられる。
- ・現在、江戸時代に彦根山に植えられた松の半分近くは消失しているが、その代わりに貴重な植物が多く生育していることから、植生の変化や移り変わりに注意しながら、今後、どのように整備するか検討すること。

○P33「ア. 枯朽したサクラ及び遺構に悪影響を与えているサクラの除去及び補植」について

- ・文中「伐採したサクラと同種のサクラの補植を行い」とあるが、これは議論した上で決定すること。
- ・同種のサクラに限らず、サクラにはその土地ごとに愛でられてきた様々な品種があり、そうしたサクラ文化を踏まえた上で、補植する品種を議論した上で決定する流れがよい。

○P33「イ. 天守への眺望を阻害している樹木の伐採」について

- ・樹木を伐採するかは、彦根山が400年かけてできた森であることの価値や、天守に向けての眺望が確保されることの価値など、複数ある価値のバランスを取って、慎重に決定すること。
- ・樹木の伐採は、計画的に行い、景観が急激に変化しないようにすること。

- P34「ア. オニバス保存のための外来種の駆除等」について
- ・動物だけでなく植物の外来種であるハスからも悪影響を受けている。
 - ・どのような管理をしたらオニバスが毎年咲くかという点は未だ不明であるが、沈んだオニバスの種は発芽しないこともあるため、水環境だけでなく水底の泥も含め、試行錯誤しながら適切な環境を検討すること。

- P34「ア. 外堀土塁遺構の樹木調査」について
- ・樹木だけでなく草本類の調査も必要である。

- P36「(4) 案内・解説施設に関する計画」について
- ・多言語化への配慮に関する記載がないため、記載すること。

- P42「④売店及び休憩施設の整備」について
- ・彦根市全体を観光地として盛り上げていくために、(特別史跡彦根城跡内にある) 売店で彦根市の特産物を広く紹介・販売することが可能となるよう、今後、検討すること。

- P45「(6) 公開・活用及びそのための施設に関する計画」について
- ・整備予定の3つのガイド施設は、それぞれ位置が違い、すべての来場者が訪れるとは限らないため、どの施設を訪れても、彦根城跡の全体像が理解できるよう、基礎的な情報は共通して提供すると共に、個々の施設の特徴に併せた情報を提供すること。
 - ・券売所や便所などの運営施設は、疑似和風デザインである必要はなく、例えば、ガラス等を用いた現代的なデザインであったとしても、新旧のデザインの対比によって、近世の彦根城の姿が引き立つことにより、よく理解できる可能性もあるので、そうした視点も取り入れること。

- P50「4. 整備事業に必要となる調査等に関する計画」について
- ・調査は整備の前段階として行うものであり、P10「2. 保存整備に関する計画」の前に示し、調査によって要素ごとの価値を決定した上で、保存・活用の整備に関する計画に反映させるという流れが適切である。

・植生調査も含めるべきか検討すること。

など